

山田彰 在ブラジル日本国大使挨拶

日本人ブラジル移住の日記念式典

2019年6月11日, 於: 下院本会議場

ルイス・ニシモリ伯日議員連盟会長,

キン・カタギリ伯日議員連盟副会長,

ヴァイトール・リッピ伯日議員連盟副会長,

ジュリア・ルーシー連邦直轄区議会議員,

下院議員各位, ご列席の皆様

はじめに、「移住の日」を記念して、本年もこのように素晴らしい機会を設けて頂きましたことに、御礼申し上げます。

1908年、最初の日本人移住者が伯に来て以来、移住者は、多くの困難に直面しつつも、常に真摯に励み、彼らの子孫は、今日の伯の発展に大きく貢献するとともに、伯社会の重要な一員となりました。現在、伯における日系社会は約200万人を数え、日本国内にも約20万人の伯人が住んでいます。

こうした人的絆に支えられる両国は、民主主義、自由、法の支配といった基本的価値観を共有しており、伝統的な友好関係を構築していま

す。これまでナショナル・プロジェクトと呼ばれる様々な大規模事業を共に実施してきました。例えば、セラード農業開発、ウジミナス、セニブラ、イシブラス、アルブラス、カラジャス開発などの大型官民協カプロジェクトが挙げられます。特に、セラード開発(PRODECER)は、セラード地域を世界有数の農業生産地帯に、伯を世界有数の大豆生産国・輸出国に買えしました。日本人と伯人の双方が誇るべきプロジェクトであると考えます。また、我が国は、伯の都市インフラや地上デジタル放送の整備、防災対策、或いは、地域警察(交番)制度の導入等も進めてきました。国際場裡においても、国連改革、気候変動、環境、WTO改革など、両国は協力関係を深めてきています。

日本人ブラジル移住110周年を祝賀した昨年、6月に、この下院本会議場で記念式典を開催して頂きました。そして、昨年を通して、皇太子殿下のブラジリア訪問、オリヴェイラ上院議長の訪日、眞子内親王殿下の5州14都市訪問、両国外相による相互訪問等、多くの要人往来が実現し、両国の友好関係が一層発展した素晴らしい移住110周年となりました。

2019年、両国はそれぞれ新時代を迎えています。伯は、1月にボルソナーロ新政権が発足し、連邦議会も顔ぶれが大きく変わり、伯全土に新しい風が吹いています。そして我が国でも、5月に皇太子殿下が天皇陛下に即位され、令和というBeautiful Harmonyを意味する新しい元号とともに、新時代が始まりました。私は、この新しい令和の時代に、歴史的な両国関係を更に前進させるとともに、国際場裡においても、世界の平和、安定及び繁栄のために、更に伯と手を携えていきたいと考えています。

両国関係に関しては、本年1月に日伯首脳会談が実現し、両国首脳間の信頼関係が築かれました。2月には、日系のキン・カタギリ下院議員を含め、若手議員の方々に訪日頂き、新たな議会交流が始まりました。そして、本年は、我が国がG20議長国を務める関係で、一年を通じて計8件のG20閣僚級会合が開催される他、今月末にはG20サミットが大阪で開催されます。ボルソナーロ大統領を始め、多くの閣僚が訪日する予定で、そうした機会に、両国の協力が更に拡大することを期待しています。例えば、環境、科学技術、教育、デジタル、防衛等の分野での協力に加え、汚職対策、犯罪対策、災害対策等の多方面で両国間の連携強化を目指していきたいと考えています。また、伯で各種の改革が進展すれば、

多くの日本企業が再び伯に目を向け、企業進出や投資拡大に繋がると確信しています。

国際場裡の協力については、これまで日伯両国は、安保理改革を含む国連改革やWTO改革での連携、南米やアフリカにおける三角協力、気候変動分野におけるパートナーシップ、多角的自由貿易システムの擁護者としての協力等、国際場裡で連携を進めています。ボルソナーロ大統領は私に対して、「自分を日本の友人と思って欲しい」と仰いました。日伯両国は戦略的グローバル・パートナーシップとして、今後も、二国間協力の強化に加え、様々な国際的な課題について、共に取り組んでいければと思います。

最後に、日頃から両国関係を支えて頂いている下院議員の皆様、議会・政府関係者、DF議会関係者の皆様、そして日系社会の皆様に対し、在ブラジル日本国大使として、改めて心からの御礼を述べて、私の挨拶を終えたいと存じます。ご静聴ありがとうございました。(了)